

平成29年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

農産物直売活動を通じた元気なむらづくり

○集団等の名称 からり直売所出荷者運営協議会（代表 田中 京子）

○所在地 愛媛県喜多郡内子町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

内子町は、愛媛県のほぼ中央部に位置し、面積は299.43km<sup>2</sup>で平地は少なく山林が77%を占めており、その中で、内子地区は、町の西部に位置する。

明治期から大正期にかけて木蠟生産で栄えた商家や劇場が重要文化財に指定され、町並み保存地区を中心とした観光地になっている。

基幹産業は農林業で、かきをはじめ、くり、ぶどう、なしの産地であり、野菜も多様な品種が栽培・生産されている。

・むらづくり組織の概要

① 中山間地域に共通する過疎化、高齢化、後継者不足等による農業基盤の脆弱化を危惧し、農産物のブランド化、農村女性の自立化等により、「農業・農村の元気創造を目指す」ことを目的に昭和61年1月に「知的農村塾」が開塾した。

② 農村女性の自立の場として特産物直売所の開設を進めることとなり、平成6年7月に参加者による手作りの産直トレーニング施設「内の子市場」を整備し、同月「内の子市場運営協議会」が発足した。

③ 平成8年の「内子フレッシュパークからり特産物直売所」の開設を機に、「からり直売所出荷者運営協議会（以下「運営協議会」という。）」に変更し、現在も、直売所の運営、イベントの企画、会員の研修等に組織的に取り組んでいる。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

① 直売所開設当初は女性、高齢者が中心であったが、専業農家や若者の出荷者も増加しており、直売所の販売総額は、内子町の林業を除く農業総生産額の16%（4億円）を占め、農家の経営を支える場となっている。

② 直売所の売上情報を含む農業情報を双方向で発信するシステム（からりネット）が、消費者ニーズの把握に繋がり、さらにトレーサビリティシステムを付加し、農産物の安全・安心ブランドを確立した。

③ 端境期の出荷物確保のため、運営協議会に「はざま部会」を創設し、農産物の作型の研究を行っている。

(2) 生活・環境整備面

① 運営協議会の会長は当初から女性が担うなど、女性の視点で事業が進められている。また、運営協議会の会員の家族経営協定締結数は95件で町内の86%を占めており、女性の意欲とやり甲斐が積極的な経営参画に繋がっていることから経済的・社会的自立が醸成されている。

② 農産物の旬にあわせたイベント開催、農産物加工体験等による消費者との交流やインターンシップの受入、地元小中学生への農業体験学習にも積極的に取り組んでいる。

③ 輸送手段のない山間部の高齢農家に対する農産物の巡回集荷により、耕作の継続と収入確保につなげている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、女性主導の直売所づくり、地域農業と消費者を結ぶ先駆的な取組（からりネット）の実践や、直売所を中心とした地域活性化により、地域を元気にしている事例であり、今後も取組の継続が期待できる。

経済的な豊かさだけでなく、地域の交流の深まり、心の豊かさにもつながっており、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。